

## モニタリング調査結果

日 時：令和5年（2023年）12月2日（土）8:40～15:00

場 所：直島町直島（調査場所①：宮浦港近くの海岸、調査場所②：外ヶ浜の海岸）

参加者数：30名

12月2日（土曜日）30名の方に参加いただき、直島でビーチクリーンアップモニタリング調査を実施しました。

島内2か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup (ICC) 手法と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と海岸漂着ごみの回収を行いました。

海ごみリーダー養成講座（11月5日開催）の修了生がキャプテンやキャプテンのサポートを務め、講座の中で学んだ調査時の留意点などについて説明した後、調査を行いながらごみの回収をしました。

1か所目の宮浦港近くの海岸は、一見きれいに見えながらも、丁寧に回収を進めるとカキ養殖用まめ管（191個）、タバコの吸い殻（160個）、硬質プラスチック破片（121個）など小さなごみが多くありました。

2か所目の外ヶ浜の海岸も同様に2つの方法で調査を行いました。こちらの海岸は、グランピング施設が近くにあり、定期的にごみ拾いをしているためか大きいごみは少なく、取り残された発泡スチロール破片（174個）や硬質プラスチック破片（87個）が多くありました。

参加者からは、「ごみが無いように見えたのですが、よく見ると小さなごみがたくさんありました。だから拾ってよかった」「タバコフィルター、季節に関係なく残る」「以前と違った海岸で調べるとごみの種類も違って面白かった」などの意見がありました。

海ごみ問題のミニ講座を聞いて、海ごみが生き物へ及ぼす影響や日本から流れ出たごみが思っている以上に遠くの外国まで流れて行くのに驚いていました。

今回の調査を通して、身近な場所、出来ることから海ごみを減らす取り組みを始めるきっかけになればと思います。

### 各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった3品目） t = 25分間	回収量
宮浦港近くの海岸	① カキ養殖用まめ管（長さ 1.5 cm） 191 個	1 袋（45L ゴミ袋） 4.6kg
	② タバコの吸い殻・フィルター 160 個	
	③ 硬質プラスチック破片 121 個	
外ヶ浜の海岸	① 発泡スチロール破片 174 個	1 袋（45L ゴミ袋） 3.2kg
	② 硬質プラスチック破片 87 個	
	③ カキ養殖用まめ管（長さ 1.5 cm） 79 個	

#### 【International Coastal Cleanup (ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

#### 【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量をだまかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：宮浦港近くの海岸



ICC 調査の様子



ICC チェックシートに記入

調査場所②：外ヶ浜の海岸



海ごみリーダー養成講座受講生による説明



クリーンアップの様子



海ごみの話



集合写真